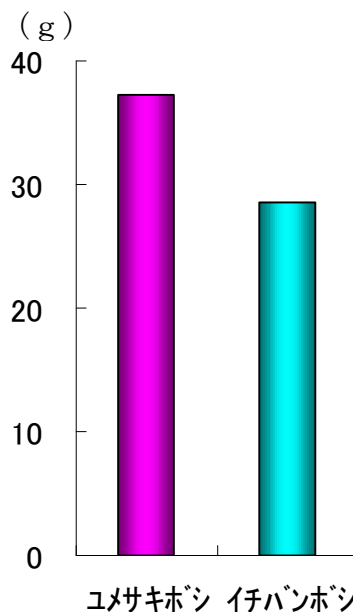


## 押し麦に向く麦新品种「ユメサキボシ」

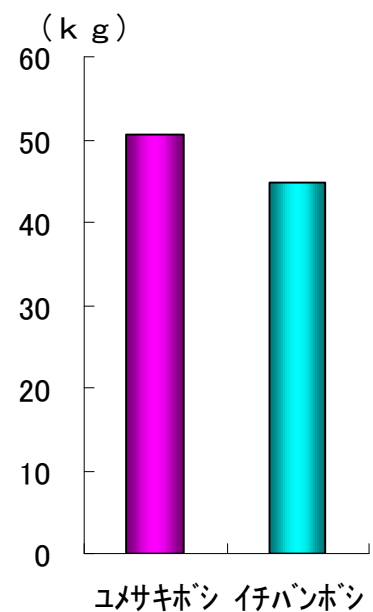
現在、埼玉県で栽培されているはだか麦品種「イチバンボシ」は、収量が多く、麦ご飯に使われる押し麦に向いています。しかし、天候によって粒が小さくなりすぎることがあり、押し麦を作る業者から改善を求められています。また、生産者は麦を出荷するときに品質を揃えるためふるいにかけていますが、粒が小さすぎるとふるいから抜け落ちてしまい出荷量が減ってしまいます。そこで大粒で押し麦に向く「ユメサキボシ」を認定品種として採用し、県産はだか麦の品質の向上と安定した生産を図ります。ちなみに「ユメサキボシ」は農研機構 近中四農研が育成した国内初の二条はだか麦です。



ユメサキボシ      イチバンボシ  
株標本



千粒の重さ (g)



2.2mmでふるいをかけた後のアールあたりの収量 (kg)



ユメサキボシの押し麦      ユメサキボシの粒の写真      イチバンボシの粒

※栽培するときは穂発芽しやすい点と成熟期が遅い点に注意が必要です。  
(水田農業研究所 米・麦担当 TEL 048-521-5041)